

業務及び財産の状況に関する説明書

2019年4月期

DAN ベンチャーキャピタル株式会社

この説明書は、金融商品取引法第46条の4に基づき、全ての営業所若しくは事務所に備え置いて公衆の縦覧に供し、又はインターネットの利用その他の方法により、お客様が常に容易に閲覧することができるよう公表するために作成したものです。

I 当社の概況及び組織に関する事項

1. 商号

DANベンチャーキャピタル株式会社

2. 登録年月日及び登録番号

登録年月日 2017年7月31日

登録番号 関東財務局長（金商）第3000号

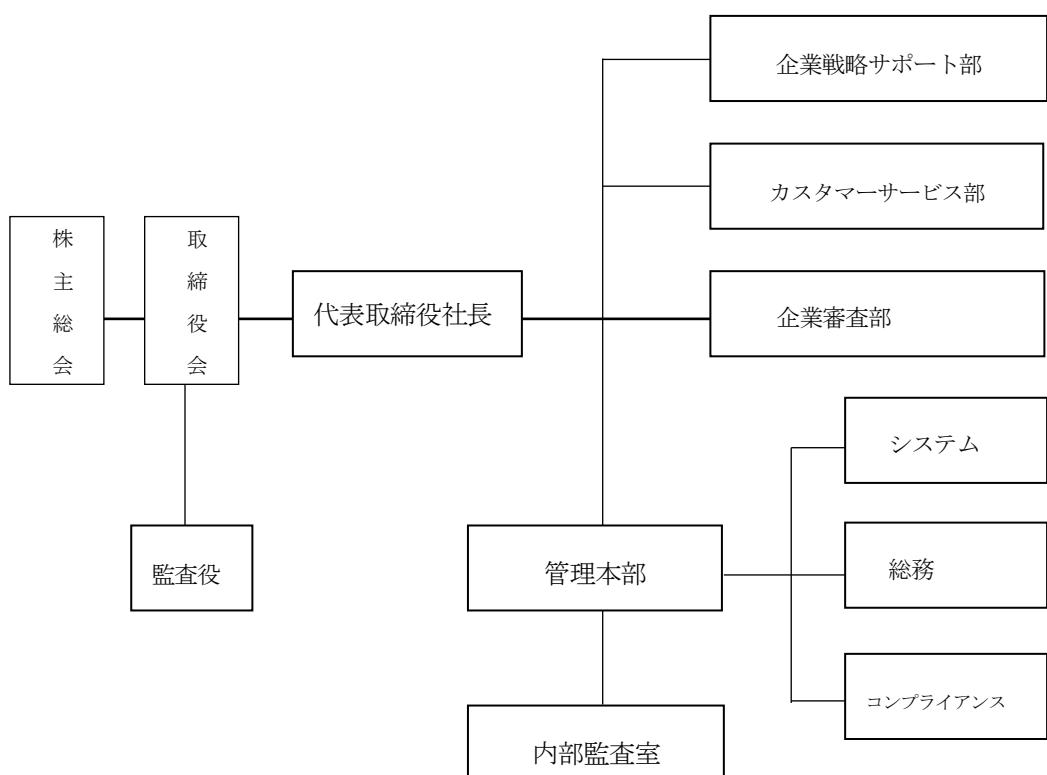
3. 沿革及び経営の組織

(1) 会社の沿革

2016年5月	会社設立
2016年6月	DAN1号投資事業有限責任組合 設定
2016年7月	ゴキゲン1号投資事業有限責任組合 設定
2017年7月	金融商品取引業（第一種少額電子募集取扱業務）登録
2017年9月	日本証券業協会、証券・金融商品あっせん相談センター加入 第一種少額電子募集取扱業務 営業開始

(2) 経営の組織

(2019年4月30日現在)



4. 株式の保有数の上位10位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合

(2019年4月30日現在)

株 主 名	持株数	持株比率
出縄 良人	1,587,000 株	58.05%
株式会社 MJS Finance & Technology	515,000 株	18.84%
株式会社出縄&カンパニー	113,000 株	4.13%
有限会社こおゆう	65,000 株	2.38%
ダンコンサルティング株式会社	32,000 株	1.17%
堀淵 昭洋	28,000 株	1.02%
中村 政温	24,000 株	0.88%
竹川 忠徳	24,000 株	0.88%
出縄 正人	20,000 株	0.73%
小谷 郁夫	11,000 株	0.40%

(注) 割合は、端数を切り捨てて記載しております。

5. 役員の氏名又は名称

(2019年4月30日現在)

役 職 名	氏 名 又 は 名 称
代表取締役 社長	出縄 良人
取締役 管理本部長	荒川 和人
取締役 カスタマーサービス部長	池田 好廣
監査役	唐澤 貴夫

6. 政令で定める使用人の氏名

(1) 金融商品取引業に関し、法令等を遵守させるための指導に関する業務を統括する者の氏名

(2019年4月30日現在)

氏 名	役職名
荒川 和人	取締役 管理本部長 (内部管理統括責任者)

(2) 投資助言業務又は投資運用業に関し、助言又は運用を行う部門を統括する使用人の氏名

該当事項はありません。

7. 業務の種別

(1) 金融商品取引業

- ・ 第一種少額電子募集取扱業務（金融商品取引法第29条の4の2）
 - ① 募集の取扱（金融商品取引法第2条第8項第9号）
 - ② 金銭の預託（金融商品取引法第2条第8項第16号）
- ・ 適格機関投資家等特例業務（金融商品取引法第63条）

(2) 金融商品取引業に付随する業務

株主名簿管理人業務

8. 本店その他の営業所又は事務所の名称及び所在地

(2019年4月30日現在)

事業所名	所 在 地
本 社	東京都千代田区内幸町一丁目 1 番 1 号 帝国ホテルタワー15 階

9. 他に行っている事業の種類

コンサルティング事業（財務コンサルティング、M&Aアドバイザリー）

教育研修事業（ベンチャーキャピタリスト養成講座）

10. 苦情処理措置及び紛争解決措置の内容

特定非営利活動法人証券・金融商品あっせん相談センターとの間で、特定第一種金融商品取引業務に係る手続実施基本契約を締結しております。

11. 指定紛争解決機関、加入する金融商品取引業協会及び対象事業者となる認定投資者保護団体

(1) 指定紛争解決機関

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

(2) 加入する金融商品取引業協会

日本証券業協会

(3) 対象事業者となる認定投資者保護団体

該当事項はありません。

12. 会員又は取引参加者となる金融商品取引所の名称又は商号

該当事項はありません。

13. 加入する投資者保護基金の名称

該当事項はありません。

II 業務の状況に関する事項

1. 当期の業務の概要

当社は、中小企業のエクイティファイナンスの支援を目的に、株式投資型クラウドファンディング業務とCVC（コーポレートベンチャーキャピタル）サポート業務を事業の柱としています。

当社は、2017年7月に金融商品取引法の定めによる第一種少額電子募集取扱業者として登録（関東財務局長（金商）第3000号）され、同年9月に株式投資型クラウドファンディングのプラットフォームGoAngel（ゴーエンジェル）を開設いたしました。当期は、株式投資型クラウドファンディング業務の開業2年目にあたり、本格的に事業を軌道に乗せるべく取り組んで参りました。募集取扱銘柄数は、前期比1銘柄増の7銘柄となりましたが、うち5銘柄については不成立または募集中止となり、募集取扱額は20百万円（前期比78.3%減）、募集取扱手数料は、2,000千円（前期比72.9%減）に留まりました。一方、株式投資型クラウドファンディング業務により資金調達を行った発行会社に対する株主名簿管理人業務の管理報酬は、4,570千円（前期比226.4%増）となりました。

CVCサポート業務につきましては、上場企業数社からCVCサポート業務を新たに受託し、ファンド管理報酬を含むCVCサポート報酬は5,325千円（前期比186.7%増）となりました。

コンサルティング事業におきましても、新規クライアントが増加し、コンサルティング報酬は18,305千円（前期比47.6%増）となりました。

その他、ベンチャーキャピタリスト養成講座やセミナーなどの教育研修事業の収益は、前期4,165千円からやや減少し、3,570千円となりました。

以上の結果、当期の売上高は33,772千円（前期比24.0%増）となりました。一方、金融商品取引業者としての管理体制の構築及び運用のためコストが増加し、販売費及び一般管理費の合計は、67,826千円（前期比20.2%増）となっております。主な内訳は、人件費34,990千円、取引関係費5,179千円（うち広告宣伝費2,121千円）、不動産関係費5,824千円、減価償却費2,953千円などです。また、営業外収益は100千円、営業費用802千円でした。これらにより、経常損失は34,755千円（前期は29,914千円の損失）、当期純損失は36,180千円（前期は30,094千円の損失）となりました。

（注）記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

2. 業務の状況を示す指標

当社は、第3期の2017年9月より、第一種少額電子募集取扱業務を開始しております。

(1) 業績等の推移

(単位：千円)

区分	第2期 2017年4月期	第3期 2018年4月期	第4期（当事業年度） 2019年4月期
受入手数料		7,397	2,000
(委託手数料)		—	—
(引受・売出し・特定機関投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料)		—	—
(募集・売出し・特定機関投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料)		7,397	2,000
(その他)		—	—
トレーディング損益		—	—
金融収益		—	—
その他手数料	14,175	19,822	31,772
純営業収益	14,175	27,219	33,772
経常利益	△30,942	△29,914	△34,755
当期純利益	△31,122	△30,094	△36,180
資本金	65,000	81,250	118,500
発行済株式総数	12,600 株	2,585,000 株	2,734,000 株

(2) 有価証券引受・売買状況

① 株券の売買高の推移

(単位：千円)

	第2期 2017年4月期	第3期 2018年4月期	第4期（当事業年度） 2019年4月期
自己		—	5,000
受託		—	—
計		—	—

(注) 名学館ファイナンシャルアドバイザリー(株) 普通株式500株(5,000千円)を2018年8月に売却いたしました。

② 有価証券の引受け及び売出し並びに特定機関投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況

事業年度	(単位：千円)	引受高	売出高	特定投資家向け勧誘の総額	募集の取扱高	売出しの取扱高	私募の取扱高	特定投資家向け売付け勧誘の取扱高
第2期 2017年 4月期	株券							
	国債							
	地方債							
	特殊債券							
	社債券							
	受益証券							
	その他							
第3期 2018年 4月期	株券	—	—	—	92,300	—	—	—
	国債	—	—	—	—	—	—	—
	地方債	—	—	—	—	—	—	—
	特殊債券	—	—	—	—	—	—	—
	社債券	—	—	—	—	—	—	—
	受益証券	—	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—	—
第4期 (当期) 2019年 4月期	株券	—	—	—	20,000	—	—	—
	国債	—	—	—	—	—	—	—
	地方債	—	—	—	—	—	—	—
	特殊債券	—	—	—	—	—	—	—
	社債券	—	—	—	—	—	—	—
	受益証券	—	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—	—

(注) 当社は、第3期の2017年9月より、第一種少額電子募集取扱業務を開始しております。

(3) その他の業務の状況

金融商品取引業（第一種少額電子募集取扱業）以外の状況は、以下の通りであります。

(単位：千円)

項目	前事業年度（第3期）	当事業年度（第4期）
コンサルティング及びアドバイザリー報酬	12,400	18,305
CVCサポート関係報酬	1,857	5,325
株主名簿管理報酬	1,400	4,570
教育研修事業	4,165	3,570

(4) 自己資本規制比率の状況

当社は第一種少額電子募集取扱業のみのため、該当事項はありません。

(5) 使用人の総数及び外務員の総数

	第2期 2017年4月期	第3期 2018年4月期	第4期（当事業年度） 2019年4月期
使　用　人	5　名	8　名	9　名
(うち外務員)	－	(　2　名　)	(　2　名　)

(注) 当社は、第3期の2017年9月より、第一種少額電子募集取扱業務を開始しております。

III 財産の状況に関する事項

1. 経理の状況

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	前事業年度 (2018年4月30日)	当事業年度 (2019年4月30日)	科 目	前事業年度 (2018年4月30日)	当事業年度 (2019年4月30日)
	金額	金額		金額	金額
(資 産 の 部)			(負 債 の 部)		
流動資産	32,169	82,633	流動負債	5,939	15,155
現金及び預金	25,809	64,729	未 払 金	259	97
預 託 金	1,000	9,864	未 払 費 用	3,286	3,133
営業未収入金	2,798	5,470	未払法人税等	179	1,220
貯 藏 品	1,127	1,328	一年内返済予定		
未 収 消 費 税	542	442	長 期 借 入 金	1,434	0
前 払 費 用	822	796	前 受 金	59	450
立 替 金	69	2	預 り 金	720	10,254
固定資産	21,030	15,321	固定負債	2,780	0
有形固定資産	434	374	長 期 借 入	2,780	0
器 具 備 品	434	374	負 債 合 計	8,720	15,155
無形固定資産	13,150	12,620	(純 資 産 の 部)		
商 標 権	1,199	1,049	株 主 資 本	44,479	82,799
ソ フ ト ウ ェ ア	11,951	11,571	資 本 金	81,250	118,500
投 資 そ の 他 の 資 産	7,445	2,325	資 本 剰 余 金	41,250	78,500
投 資 有 価 証 券	6,000	1,000	資 本 準 備 金	41,250	78,500
出 資 金	200	100	利 益 剰 余 金	△78,020	△114,200
差 入 保 証 金	844	917	そ の 他 利 益 剰 余 金	△78,020	△114,200
長 期 前 払 費 用	401	308	繰 越 利 益 剰 余 金	△78,020	△114,200
資 産 合 計	53,200	97,954	純 資 産 合 計	44,479	82,799
			負 債・純 資 産 合 計	53,200	97,954

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 損益計算書

(単位：千円)

科 目	前事業年度 〔自 2017年5月1日 至 2018年4月30日〕 金額	当事業年度 〔自 2018年5月1日 至 2019年4月30日〕 金額
営 業 収 益	27,219	33,772
営業総利益	27,219	33,772
販売費及び一般管理費	56,413	67,826
営業損失	29,194	34,053
営 業 外 収 益		
受取利息	0	0
雑収入	5	100
営 業 外 費 用		
支払利息	619	282
雑損失		
株式交付費	106	519
経常損失	725	802
特別損失	29,914	34,755
投資有価証券評価損		94
税 引 前 当 期 純 損 失	29,914	34,849
法人税、住民税及び事業税	180	1,330
当 期 純 損 失	30,094	36,180

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度（第3期）株主資本等変動計算書

〔2017年5月1日から
2018年4月30日まで〕

(単位：千円)

項目	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			
2017年5月1日当期首残高	65,000	25,000	—	25,000	△47,925	42,074	—	42,074
新株の発行	16,250	16,250	—	16,250	—	32,500	—	32,500
当期純利益	—	—	—	—	△30,094	△30,094	—	△30,094
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）	—	—	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計	16,250	16,250	—	16,250	△30,094	2,405	—	2,405
2018年4月30日当期末残高	81,250	41,250	—	41,250	△78,020	44,479	—	44,479

項目	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	
2017年5月1日当期首残高	—	42,074
新株の発行	—	32,500
当期純利益	—	△30,094
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）	—	—
事業年度中の変動額合計	—	2,405
2018年4月30日当期末残高	—	44,479

(注)記載金額は、千円未満を切捨てて表示しております。

当事業年度（第4期）株主資本等変動計算書

〔2018年5月1日から
2019年4月30日まで〕

(単位：千円)

項目	株主資本						評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	株主資本合計		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金	その他有価証券評価差額金	
2018年5月1日 当期首残高	81,250	41,250	—	41,250	△78,020	44,479	—	44,479
新株の発行	37,250	37,250	—	37,250	—	74,500	—	74,500
当期純利益	—	—	—	—	△36,180	△36,180	—	△36,180
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）	—	—	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計	37,250	37,250	—	37,250	△36,180	38,319	—	38,319
2019年4月30日 当期末残高	118,500	78,500	—	78,500	△114,200	82,799	—	82,799

項目	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	
2018年5月1日当期首残高	—	44,479
新株の発行	—	74,500
当期純利益	—	△36,180
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）	—	—
事業年度中の変動額合計	—	38,319
2019年4月30日 当期末残高	—	82,799

(注)記載金額は、千円未満を切捨てて表示しております。

(4) 事業年度別注記表

前事業年度（第3期）	当事業年度（第4期）
<p>1. 重要な会計方針に係る事項</p> <p>資産の評価基準及び評価方法 有価証券の評価基準及び評価方法 総平均法による原価法</p> <p>固定資産の減価償却の方法 定額法</p> <p>繰延資産の処理方法 株式交付費・・・支出時の費用として処理しております。</p> <p>その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項</p> <p>消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。</p>	<p>1. 重要な会計方針に係る事項</p> <p>資産の評価基準及び評価方法 有価証券の評価基準及び評価方法 総平均法による原価法</p> <p>固定資産の減価償却の方法 定額法</p> <p>繰延資産の処理方法 株式交付費・・・支出時の費用として処理しております。</p> <p>その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項</p> <p>消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。</p>
<p>2. 貸借対照表に関する注記</p> <p>有形固定資産の減価償却累計額 3,067,230 円 取締役との間の取引による金銭債務 874,722 円</p>	<p>2. 貸借対照表に関する注記</p> <p>有形固定資産の減価償却累計額 5,746,413 円 取締役との間の取引による金銭債務 該当なし</p>
<p>3. 株主資本等変動計算書に関する注記</p> <p>当期末における発行済株式の数 2,585,000 株</p>	<p>3. 株主資本等変動計算書に関する注記</p> <p>当期末における発行済株式の数 2,734,000 株</p>
<p>4. リースにより使用する固定資産に関する注記</p> <p>貸借対照表に計上した固定資産の他、複合プリンター等についてはリース契約により使用しております。</p>	<p>4. リースにより使用する固定資産に関する注記</p> <p>貸借対照表に計上した固定資産の他、複合プリンター等についてはリース契約により使用しております。</p>
<p>5. 金融商品に関する注記</p> <p>① 金融商品に対する取組方針 当社は資産運用については、安全性の高い金融資産で運用しております。</p> <p>② 金融商品の内容及びリスク <ul style="list-style-type: none"> ● 預金については、全て普通預金により運用しております。 ● 投資有価証券は取引企業との業務上の関係を有する企業の株式であり、価格変動リスクにさらされております。 ● 出資金については、当社が無限責任組合員を務める投資事業有限責任組合の持分であり、価格変動リスクにさらされております。 ● 差入保証金は、取引先の信用リスクにさらされております。 </p>	<p>5. 金融商品に関する注記</p> <p>① 金融商品に対する取組方針 当社は資産運用については、安全性の高い金融資産で運用しております。</p> <p>② 金融商品の内容及びリスク <ul style="list-style-type: none"> ● 預金については、全て普通預金により運用しております。 ● 投資有価証券は取引企業との業務上の関係を有する企業の株式であり、価格変動リスクにさらされております。 ● 出資金については、当社が無限責任組合員を務める投資事業有限責任組合の持分であり、価格変動リスクにさらされております。 ● 差入保証金は、取引先の信用リスクにさらされております。 </p>

関連当事者との取引に関する注記

前事業年度（第3期）

種類	主要株主が議決権の過半数を所有している会社
会社等の名称	株式会社出縄&カンパニー
所在地	東京都町田市
資本金	3,000千円
事業の内容	経営コンサルティング業
関連当事者が有する当社の議決権の数の割合	1.20%
当社と関連当事者との関係	経営コンサルティング業務の委託及び管理事務の委託
取引の内容	月額基本委託費及び個別委託費の支払
取引の種類別の取引金額	年間売上高・・・ 600千円 年間業務委託費・・・ 1,200千円
取引条件及び取引条件の決定方針	業務委託費については一般的な取引条件と同様に決定しております。
債権債務に係る主な項目別の期末残高	未払費用・・・ 19千円

前事業年度（第4期）

種類	主要株主が議決権の過半数を所有している会社
会社等の名称	株式会社出縄&カンパニー
所在地	東京都町田市
資本金	3,000千円
事業の内容	経営コンサルティング業
関連当事者が有する当社の議決権の数の割合	4.13%
当社と関連当事者との関係	経営コンサルティング業務の委託及び管理事務の委託
取引の内容	月額基本委託費及び個別委託費の支払
取引の種類別の取引金額	年間売上高・・・ 900千円 年間業務委託費・・・ 2,700千円
取引条件及び取引条件の決定方針	業務委託費については一般的な取引条件と同様に決定しております。
債権債務に係る主な項目別の期末残高	未払費用・・・ 19千円

1株当たり情報に関する注記

項目	前事業年度（第3期）	当事業年度（第4期）
1株当たり純資産額	17円21銭	31円28銭
1株当たり当期純利益	△11円86銭	△13円67銭

2. 借入金の主要な借入先及び借入金額

(単位：千円)

借入先	前事業年度	当事業年度
出縄良人（当社代表取締役）	4,214	-

(注) 借入金は、2019年4月に全額返済しました。

3. 保有する有価証券の取得価額、時価及び評価損益

(1) 投資有価証券の内訳

投資有価証券は、当社が業務上の関係を有する企業の株式です。

(単位：千円)

ビズライト・テクノロジー 普通株式	前事業年度	当事業年度
取得価額	1,000	1,000
時価	1,000	1,000
評価損益	-	-
名学館ファイナシャルアドバイザリー 普通株式	当事業年度	当事業年度
取得価額	5,000	-
時価	5,000	-
評価損益	-	-

(注) 名学館ファイナシャル・アドバイザリー（株）普通株式500株（5,000千円）を2018年8月に売却いたしました。

(2) 出資金の内訳

出資金は、当社が無限責任組合員を務める投資事業有限責任組合の持分です。

(単位：千円)

DAN 1号投資事業有限責任組合持分	前事業年度	当事業年度
取得価額	100	100
時価	100	100
評価損益	-	-
ゴキゲン1号投資事業有限責任組合持分	当事業年度	当事業年度
取得価額	100	-
時価	29	-
評価損益	△71	-

(注) ゴキゲン1号投資事業組合は、2019年4月に解散し、残金及び投資先の(株)ゴキゲンホールディングス普通株式を分配のうえ、94千円を投資有価証券評価損（特別損失）として計上しました。

4. デリバティブ取引の契約価額、時価及び評価損益

該当事項はありません。

5. 会計監査について

当社の財務諸表については、会計監査人等による監査は受けおりません。

IV. 管理の状況

1. 内部管理の状況の概要

(1) コンプライアンス体制及び実践

当社は、資本市場の担い手として、資本市場における仲介機能という社会的責任を十分に認識し、コンプライアンスを経営の最重要課題の一つとして位置付け、その実践に取り組んでおります。日本証券業協会の規則に基づく内部管理責任者を配置し、取締役管理本部長を内部管理の責任者である内部管理統括責任者とし、企業審査部長を内部管理統括副責任者として、コンプライアンスに関する指導、モニタリング等を行っております。

また、顧客からの意見及び苦情につきましては、インターネット上に「お問い合わせ」のご案内を掲載し、電子メールによる受付を行っております。

なお、お客様より苦情や紛争の解決のあっせん等のご要望があった場合には、指定紛争解決機関として「特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター」をご案内させていただきます。

(2) 内部監査体制

内部統制及びガバナンス・プロセスの適切性、有効性を検証、評価する機能を担う部門として、当社では内部監査室を設置し、会社の全部門及びシステムを対象として、業務プロセス等業務執行状況について監査を行い、不正の発見・防止とプロセスの改善に努めております。

また、システムにつきましては、独立した専門家であるEGセキュアソリューションズ(株)によるシステム監査を受けております。

2. 分別管理等の状況

(1) 金融商品取引法第43条の2の規定に基づく分別管理の状況

①顧客分別金信託の状況

項目	2019年4月30日 現在
直近差替計算基準日の 顧客分別金必要額	8,864,000円
顧客分別金信託額	9,864,000円
期末日現在の顧客分別金必要額	8,864,000円

なお、当社では、監査法人やまぶきに、日本公認会計士協会が定める業種別委員会実務指針第54号に準拠した「顧客資産の分別管理の法令遵守に関する保証業務」を依頼しております。

②有価証券の分別管理の状況

該当事項はありません。

(2) 金融商品取引法第43条の2の2の規定に基づく区分管理の状況

①商品顧客区分管理信託の状況

該当事項はありません。

②有価証券等の区分管理の状況

該当事項はありません。

(3) 金融商品取引法第43条の3の規定に基づく区分管理の状況

①法第43条の3第1項の規定に基づく区分管理の状況

該当事項はありません。

②法第43条の3第2項の規定に基づく区分管理の状況

該当事項はありません。

V. 連結子会社の状況に関する事項

1. 子会社等の集団の構成

該当事項はありません。

2. 子会社等の商号又は名称、本店又は主たる事務所の所在地、資本金の額、事業の内容等

該当事項はありません

以上